塩硝(硝石)と黒色火薬全国資料文庫
収蔵総合目録

1995

平村郷土館

塩硝(硝石)と黒色火薬全国資料文庫
収蔵総合目録

平村郷土館

平成7年(1995)

発行 富山県東砺波郡平村

ま　え　が　き

この総合目録は、平村郷土館の収蔵塩硝資料目録を、平村が印刷発行する刊行図書です。

むかし、家々のエンノシタ（床下）の穴で“エンショ”をつくっていた話は聞いていました。村の古文書で塩硝を加賀藩へ納めていたことや、米が下げ渡されたこと、年貢に相当したなどはわかっても、それ以上調べようとしないままになっていました。

塩硝は村の主要産物だったのが、廃藩によって製造中止となり、明治の一時期再興しているが安値の輸入品に対抗できず、ついに廃業となって村民から忘れ去られてしまいました。

しかし、塩硝生産は石山合戦の頃に始まり、江戸時代300年間の歴史をもつ村の産業にまで発展していたのです。この技術は製品の質を高め生産量を増やして、国内第一と評価されるまでに発達していました。

平村では、村制百周年記念事業として、博物館の役割をもつ純木造の平村郷土館が建設され、村民の郷土理解のための各種展示室があります。そこに、伝統的技術産業だった塩硝の歴史資料と生産道具類一式を復元展示してあって、生産工程もわかるようになっています。なお、平村史編纂資料室から古文書史料を移してきて、学界、研究者の利用にも備えてありました。

平成２年、川越重昌先生が五箇山塩硝を探りに来村されたとき、先生の目に映ったのは、村内のいたる所に塩硝稼ぎをしてきた先人の歴史遺産がちらばっており、山中全体から先人たちの息づかいや声が伝わってくる感じがしたそうです。

川越先生には、全国各地の実踏調査の最後を五箇山にとの心づもりがあったので、よりくわしく探りを入れ、実証を重ねられていくうちに、20余年にわたる研究資料を五箇山に残してもよいと、お気持ちが動いて寄贈の話になり、村も研究に協力してきました。ほぼ４年間にわたる「五箇山塩硝私考」のご発表は、初編から23編まで総頁数は511頁に及んでいます。くわしい記録が織り込まれていて、平村の貴重な歴史文献資料になりました。

お約束のとおり、大量の全国資料が送られてきました。それをカードに採り整理していくうちに、目録作成に気付きました。気付いたというよりは迫られたといってよいでしょう。ただ所蔵するだけに終わらないためには、また、五

箇山塩硝資料との一体化には、全国資料文庫という形をとって公開したいと考えました。ただし、文書資料は原本からの複製です。

所蔵資料を明示しておくだけでも、歴史・科学史・郷土史ほか学会や研究者への資料提供になり、平村にのこす文化遺産のためにも、今回これを全国文庫と名付け、その総合目録刊行の運びとなりました。

この目録の構成は、加賀藩、五箇山（平村・上平村・利賀村）に関係のある資料を『分類Ⅰ』とします。昭和60年に完結をみた「越中五箇山 平村史 上・下巻」編纂史料を基礎にした古文書目録、五箇山塩硝の研究著作目録に加えて、加賀藩との関係年表を試みました。

『分類２・３・４』は、川越重昌先生からの寄贈資料で、宅急便が運んでくれました。整理と活用の便宜から、江戸時代の伝書類をＡ・Ｂに分けて分類２とします。先生の採取資料と調査記録、復元資料などをまとめた『川越文庫』を分類３として、さらに小分類してあります。分類４には、先生の研究環境づくりや人柄理解のための補助資料までを載せました。

ここに集められている資料は、全国の数知れない多くの郷土史家・図書館郷土史料係皆々様のご協力によるもので、川越先生からの感謝をこめて、なるべくお名前をあげるよう心がけました。

『分類５』は、展示品の道具類です。五十嵐孫作の書上帳（1811作成）の図を複写して紹介しました。これだけくわしく書かれ、正確な資料は全国のどこにもありません。

巻末の特別寄稿は、この目録発行に当たって執筆をお願いしました。長年の研究活動と膨大な収録記録の要約の一部として、先生自身の念願とされてきた研究大綱が述べられており、思いがこめられています。

最後になりましたが、貴重な諸資料をご寄贈くださいました川越重昌様に、深甚の謝意を表し、厚くお礼を申述べます。

この目録が手懸りになって、収録公開資料が活用されることを願望し期待いたします。

編　集　者

謝　　辞

この目録の校正刷を拝見して
＝五箇山硝石資料は世界的文化財の一つ＝

川　越　重　昌

私が初めて五箇山へ参上した時、高田氏から平村史を見せていただき驚きでした。世の多くの郷土史誌とは全く構造が異なっていました。失礼な言い方ではあるが、村の郷土史とは凡々とした住民の歴史の筈、平村史はそれを見事に記述されていることでした。その生活史が、年貢米を藩へ納める代わりに特産の硝石を上納をもって代えた、長い歴史が述べられていた事への驚きでした。

また、その資料編の件数の多さ、そして古い時代からの残存史料の多さには、一層の驚きでした。

わけても硝石上納に関する史料の豊富さは、恐らく一区画の地方の密度としては、日本の他地方では絶対に見られない豊富さで、私の狭い経験の中ではあっても、世界的に珍しい、いや全く見ることのできない壮観でした。勿論硝石の製法技術の変わった現代製法の資料は別で、既に古典製法として明治初期以前、即ち1880年以前の世界に於いてであります。

火薬の発明は支那において遠い遠い昔であるが、それでも、五箇山史料に匹敵する質量共に濃い密度はなく、アジアでもヨーロッパに於いても見ることは出来ません。

この五箇山史料の集積はまさに世界的至宝であります。正三角形の力学によって産み出された五箇山合掌造りの創造建築が、世界の文化遺産であると共に、その民家床下の深さ６尺の人造硝石原土の創作品（土）もまた同じです。これを一村だけのものとしておいては、代々名もない民の仕事として、黙々と苦労してきた300年の歴史に全く相済まない事ではないでしょうか。

この目録は、この父祖の営みを平村史資料編からぬき出して、世に問う部分が中核になっています。

私はたまたま定年退職後、日本ライフル射撃協会内銃砲史学会に所属させていただき、火薬研究の権威者南坊平造博士のお手伝いを務め、先生の没後日本全国の主要藩硝石史資料の研究稿を、同誌へ連載させていただいたが20年がアッという間に過ぎ、五箇山稿を最後にして、次は支那とアジア大陸をと心がけてきました。

この間に集めた全国300諸藩の硝石火薬資料が山積の状態になりました。使い終わったのもあって、これを知った平村史編集者だった高田善太郎氏が、ご不用になったら五箇山へ譲った下さいとの申出があったので、私としてはこれ以上の幸せがないと考え、一紙半片のものでも研究の手懸りとなるものは、つまり一切を同氏へ送ることにしました。

整理分類など全くに近く無い雑然とした集積で、それは丁度縄文時代の生活不用品を捨てた貝塚のようなものでした。何というてよいか、幸せこれに過ぎるものはありません。泪がにじみます。

こうして五箇山資料への附冊としてみる時、私の集積は全国的な広さはあっても、それだけでその藩の業務のわかるものは何一つありません。元々諸藩の武備量は幕府の軍役内でのことであり、火薬や硝石の製法は秘中の秘であったし、製法人も一子相伝で他人へ漏らすことがないので、資料が限られてきます。

各地郷土史家は、火薬、硝石を爆発危険物とみなし、警察の厳しい許可制のため、自藩火薬史研究を避けていました。今日では、一層軍事なき平和の時代ゆえ、軍国主義者に見られるのをきらっているように見受けられます。

しかし、平時故に今こそその史的研究をと、急いでいる学者は少なくないのです。また世界的にみても、自国銃砲史の研究に、自国銃砲博物館が各国に堂々と威容を示している事、日本においても平和永続のこの中で、軍事史研究を志す学者は決して少なくありません。

このようにみてくると、平村郷土館の今回の編著は、必ずや今後の研究に寄与することは明らかで、その中へ、私が集めた手懸り資料も加えていただいたのは、光栄の至りです。それと共に、この集積の99.9%が全国の私の知友からいただいたもの故、その送状も添えて整理し付記して下さった高田氏のご厚意は、研究経験のない方々の気付かない事です。多くの方々のご協力を併せて感謝申し上げます。

なお、今後余生の許す限り、未収納のものを追加したく考えておりますから、五箇山・平村の皆様、よろしくお願いします。ありがとうございました。

合掌

平成7年9月

目　　次

まえがき
謝　　辞

分類1　加賀藩と五箇山塩硝
A　五箇山塩硝の古文書目録 …… 1
B　五箇山塩硝の著作研究・出版記事目録 …… 91
C　加賀藩の軍事と加賀塩硝の年表 …… 107

分類2　江戸時代の伝書（川越重昌氏寄贈）
A　硝石・火薬製法に関する伝書目録 …… 135
B　銃砲術・火術に関する伝書目録 …… 145
付　佐藤信渕に関する文献資料目録 …… 148

分類3　川　越　文　庫
A　硝石・火薬・銃砲等古文書資料の全国県別目録 …… 151
B　硝石・火薬・銃砲・花火等資料の全国県別目録 …… 173
C　川越重昌稿、県（藩）別調査研究の目録・略歴 …… 204
D　川越重昌著作刊行物目録
a　「銃砲史研究」の年度別発表論文　題名別集計 …… 213
b　「銃砲史研究」以外の発表論文・投稿（抄） …… 223

分類4　参考図書並びに文献資料
Aa　文献図書・参考図書目録 …… 237
Ab　一般図書・冊子類目録 …… 242
B　研究発表刊行物目録 …… 248
付　「銃砲史研究」総目次 …… 252
C　参考資料刊行物目録 …… 262
D　刊行物以外の資料目録 …… 264

分類5　塩硝づくりの道具 …… 267

特別寄稿　「硝石、火薬、花火史全国資料」の集積と
目録の意味について …… 川　越　重　昌　275

あとがき …… 283